

会議録（要点記録）

令和6年度 堺市南区政策会議（第2期） 第1回未来共創高校生部会	
開催日時	令和6年1月18日（木） 午後5時～
開催場所	南区役所 201・202会議室
出席構成員名	（敬称略） 橋爪 紳也、今中 未余子、浦島 昊人、下 哲也、 佐々木 希陽人、岡上 晴香、山本 湊、竹村 一花、 久保 柚葉、増永 湊汰
事務局 管理職員	南区役所 中山区長、谷口副区長、松本副区長、上山参事、西村参事 檜本南保健センター所次長、百嶋子育て支援課長 川畑自治推進課長、喜多区政企画室長 市長公室 手取政策企画部先進事業担当課長 泉北ニューデザイン推進室 北口事業推進担当課長、石崎スマートシティ担当課長
議題	（1）3つの方向性に基づく事業について ①南区独自の防災力向上モデル ②子育て・教育、健康長寿などにおける南区ウェルビーイング総合プロジェクト ③南区ブランド戦略 （2）南区ウェルビーイング見える化プロジェクトについて
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・配席図 ・資料1 3つの方向性について ・資料2 堺市南区基本計画概要版 ・資料3 南区ウェルビーイング見える化プロジェクト ・資料4 3つの方向性に関する御意見一覧 ・資料5 議論テーマ

<p>審議状況</p>	<p style="text-align: center;">開会（午後5時00分）</p> <p>1. 開会</p> <p>区政企画室主査 ただいまから、堺市南区政策会議第1回未来共創高校生部会を始めさせていただきます。それでは、南区長の中山より御挨拶申し上げます。</p> <p>1. (1) 南区長挨拶</p> <p>南区長 皆様こんにちは。区長の中山でございます。 第1回未来共創高校生部会の開催に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。 皆様方におかれましては、お忙しい中、また、今日は雨ということでお寒い中、本当にお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。 ちょっと堅い話になりますが、南区のこの区政策会議は、南区の実情や特性に応じた区の行政を実現するために様々な方から御意見を頂いて、施策に反映していくという大事な会議でございます。 昨年、また一昨年度の第1期の南区政策会議におきまして、なかなか御意見をお伺いする機会がなかった高校生の皆様方の御意見を頂戴したいということで、今年度、新たにこの未来共創高校生部会を開催する運びとなったものでございます。 本日は、南区内の高校から8名の皆様をお迎えすることができ、御参画いただいたことを本当にうれしく思っております。大変緊張されてるかもしれませんが、皆様方から頂戴する様々な御意見を、私どもとしては南区の事務事業に反映していきたいと思っておりますので、忌憚なく、積極的に今日は思ってもらって、感じてもらうことを御発言いただければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>区政企画室主査 次に、本日の資料について確認させていただきます。 《資料確認》</p> <p>1. (2) 構成員・特別構成員紹介及び事務局紹介 《紹介》</p> <p>1. (3) 未来共創高校生部会についての説明</p> <p>区政企画室主査 議題に移ります前に、本部会の開催目的等について、区政企画室長より御説明させていただきます。</p> <p>区政企画室長 未来共創高校生部会の開催目的等について、御説明させていただきます。 本部会は、令和5年度、6年度を設置期間とする第2期堺市南区政策会議の専門分野別会議として設置しております。 区政策会議の御意見については、区長が勘案し、適切な措置を講じることとしており、南区の実情及び特性に応じた政策形成を進め、もって特色ある区行政の実現に資することを会議の目的としております。 お手元の資料1を御覧ください。 1枚目の下段、下側、未来共創高校生部会を開催する理由の部分に記載のとおり</p>
-------------	---

り、令和3年度・4年度に設置しておりました第1期堺市南区政策会議では、堺市南区基本計画に掲げた3つの基本方針に基づき、それぞれ部会を設置いたしました。各部会での御意見を踏まえ、南区役所では、3つの方向性、「南区独自の防災力向上モデル」、「子育て・教育、健康長寿などにおける南区ウェルビーイング総合プロジェクト」、「南区ブランド戦略」をまとめたところです。資料1枚目の裏とそして2枚目に、その内容をまとめております。また御覧いただけたらと思います。

現在、この方向性に基づいた施策・事業を実施し、加えてスマートシティの推進などによる南区のウェルビーイングの実現をめざしているところです。

しかし、第1期政策会議では、子ども、特に高校生の御意見をお伺いする機会がなかったことから、令和5年4月1日施行のこども基本法に掲げられた子どもの意見表明機会の確保や子どもの意見の尊重の理念を受け、このたび、この3つの方向性や、それに基づく施策・事業に高校生の皆様の御意見を反映させていくことを目的として本部会を設置したところでございます。

この第2期政策会議では、南区のウェルビーイングとはどのような姿・状態なのかを御議論いただきまして、最終的には南区のウェルビーイングを絵姿に表すことを目標としております。その絵姿を令和8年度以降の区の指針となる次期堺市南区基本計画につなげてまいりたいと考えております。今後、南区のウェルビーイングの実現に向けた議論を進めていく中においても、高校生の皆様の御意見をお伺いしたいと考えております。

本日は、活発な御意見をお願いしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

1. (4) 部会長及び職務代理者の選出

区政企画室主査

続きまして、部会長及び職務代理者の選出に移らせていただきます。

部会長の選出につきましては、堺市南区政策会議開催要綱第7条の規定により、互選で選出することとなっております。どなたか御意見ございますでしょうか。

今中構成員

部会長ですけれども、学識経験があつて、この政策会議の全体会の座長を務めておられます橋爪先生が適任かと思いますが、いかがでしょうか。

区政企画室主査

皆様いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、橋爪構成員に部会長をお願いしたく存じます。よろしく願いいたします。

以降の議事進行につきましては、橋爪部会長をお願いしたいと思います。

橋爪部会長、よろしく願いいたします。

橋爪部会長

橋爪です。私と今中さんは、母体となっている会議のメンバーです。私は、会長を1期から2期まで継続して務めさせていただいております。

母体となっている会議のほうには、公募の委員という枠があり、大学生の方に委員になっていただいておりますが、今回、高校生の皆さんの意見もぜひとも伺いたいということで、この場を設定させていただいております。

今回お示ししているウェルビーイングという言葉は、あまり聞き慣れない、ふだん使わないかと思いますが、国のほうにデジタル田園都市国家構想がありまし

て、暮らしやすい国にしていくなかで、ウェルビーイングという考え方が大事であると提唱しています。幸せのかたちは地域ごとに違う、また一人一人違うけれども、暮らしやすいまちをつくっていくという際に使われている言葉です。全体会でも、ほかの町とは違う南区らしい、この地域ならではの暮らしやすさをめざそうと議論しております。ぜひ皆様の意見も伺いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

私ที่ไม่分かるときは、地元出身の今中さんにフォローいただければと思います。「さん」づけで進めさせていただきたいと思っておりますので御了承ください。

では、早速議事に入りたいと思います。

要綱第7条により、部会長の職務を代理する者を部会長があらかじめ指名することになっております。全体会構成員であり、御所属の事業で高校生との関わりがよくあるというふうにご伺っておりますので、今中構成員にお願いしたいと思っております。よろしいでしょうか。

よろしく願いいたします。

2. 議題

(1) 3つの方向性に基づく事業について

①南区独自の防災力向上モデル

橋爪部会長

では、議題(1) 3つの方向性に基づく事業について入ってまいりたいと思います。

資料4、3つの方向性に関する意見一覧を御覧ください。

事前に高校生の皆さんに御意見を頂いたものを整理して、資料4に掲載しています。どなたの御意見かというのが分からない形で、要点を整理して列記しています。

これを基に資料5、「議論テーマ」を御覧ください。

皆さんから頂いた御意見を整理した上で区役所、事務局側としまして、ぜひこの点に関して深く考え方を伺ってみたい、深掘りしたいということで、本日の議論のテーマとして区役所のほうで設定していただいたものです。これを基に議論してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、方向性の1つ目、南区独自の防災力向上モデルから考えてまいりたいと思います。

高校生の皆さんからは、小学生防災リーダー養成講座、近所同士の連携の重要性、若い世代への防災教育、防災情報や災害時の情報の伝達や公開などに関して御意見を頂いたところです。

今年元旦、能登半島で震災が発生したばかりですし、防災への関心が高まっているかと思っております。御意見の中にも、よく知った町ではないため不安というような御指摘もありました。住んでいる方に限らず、通勤・通学の方なども、要は地域で時間を過ごされる全ての方に必要な情報を適切に伝えるということが大事だということを感じております。

本日は、頂いた御意見の中で若い世代への防災教育というテーマに絞りまして議論を行いたいと思っております。

資料5の方向性①のところにあります、テーマは、高校生・若い世代の防災教育についてです。

高校生の皆さんにとって災害が起こった時に、防災の知識、あるいは災害の後どのように過ごすのかという、知識が必要だというようなところは、我々誰もが思うところかと思っております。

質問の1つ目です。皆さんはどのぐらい防災意識がありますか。防災についてどのような学習の経験などがあるかという点ですが、何か御意見ありますでしょ

うか。学校で防災のトレーニングとかってあるんでしょうか。

今中構成員

地震の揺れる体験とか。

橋爪部会長

何か学校で防災教育、こんなんがあるんだということをちょっと教えてください。お願いします。

山本特別構成員

学校で防災について触れる機会といえば、避難訓練が一番大きいかなと思っていて、逆に言ったら、それ以外はあんまり印象に残るようなものはない。ちょっと保健の授業とかで防災の範囲に入っていたりとかで、こういう行動をするんだというのを学んだりする機会はあるんですけど、実際に動いてみるとなると避難訓練ぐらいしかないので、防災の知識に自信があるとは言えない状況かなと思っています。

橋爪部会長

大阪市だと阿倍野とかにも地震の体験施設とかあったりしますし、後は、避難の後どうするのかとか。そういうのは。

山本特別構成員

地域の子ども会とかで、防災センターみたいなのに連れていってもらったりして、震度7を体験してみるとか。あと地震に限らず、台風、こんな風速出たら、こんな風が来るんだみたいな体験をしたことがあります。

ただ、それってやっている人、やってない人で全然違うと思うので。僕たちの年代では、あんまりやっている人は少ないかなと思います。

橋爪部会長

では、学校で今どんな学習があって、知識があるかというのに加えて、どんな防災の教育とか、教育というか体験の場があったら良いかとかいうのは、何かアイデアがあればお願いします。

山本特別構成員

僕たち今高校生で動ける年代かなというふうには思っているんで、今、高齢化で、高齢の人が増えてきている中で、やっぱり高校生が災害時にどんな助けができるのかとか、動ける人は使ったほうが良いと思うので、災害時、起きたときに高校生にできることを前もって教えといてもらったりとかしたら。実際、もしも起きたときに、それに対して行動できたりとか、それから派生して、こんなこともしたらいいんとちゃうかなという自分の中での考えが広がるきっかけになるかなと思うので、実際起きたとき、何すればいいのかというのをちゃんと指摘しておいてもらえれば、行動に移しやすいかなと思っています。

橋爪部会長

ありがとうございます。

では、浦島さん。

浦島特別構成員

僕は、高校で防災を知る機会とか知識をつけるのは、やっぱり訓練になるんですけど、どうしても形式的な感じになってしまって。その放送が鳴って、み

んなで運動場に行くみたいな、それで消防隊員の方の話を聞くみたいなものが多いんですけど、そうなったときにやっぱり印象に残りづらいんですね。

僕、小学生のときに、消防隊員の方がたくさん来て、テントの中で煙の火事になったときの避難方法とかそういうのを学んだことがあって、小さい頃にそういう体験したら意外と印象に残りやすいなというので、今でも僕が覚えているのは、そういうところかなと思いますね。

橋爪部会長

ありがとうございます。ほか何か。
お願いします。増永さん。

増永特別構成員

先ほどの話の中にもあったと思うんですけど、学校での震災に対する防災というのは、やっぱり避難訓練とかしなくて、さっきも言ってくれたとおり、やっぱりグラウンドに出て先生の話聞いて、みたいなちょっと形式的な形でしかない。グラウンドに避難した後というのが本来あると思うんですよ。やっぱりグラウンドに避難しただけじゃ、2次災害とかが起きた場合に対応できない。津波とかが、南区であれば縁がないと思うんですけど、ほかの地域とかに住んでいたりしたら、そういうことも起こるので、やっぱり学校全体でも、どこに避難すべきなのかというのをちゃんと教育、テーマにしていかないといけないんじゃないかなと思いました。

橋爪部会長

皆さん移動先で、旅行に行っているところとかで地震が起こったりするのがあるので、学校の中だけの避難訓練だけでは不十分だということを私も思います。
ほか御意見ありますでしょうか。
どうぞ、浦島さん、お願いします。

浦島特別構成員

僕が、南区に通っていて結構思うのは、南区のもっと下のほうというか、山がいっぱいあって、雨がいっぱい降ったりしたときに土砂災害とか、石津川も通っているんで氾濫の危険性というか。防災マップを見ようと思ったら調べて見られるんですけど、ふいに触れるというものではないので、防災マップをもっと広めていくのが重要かなと思いました。

橋爪部会長

ハザードマップは、誰もが見ることができます。自分の家とか通学路はどうなっているのか、確認はできると思います。今中さん、何かありますか。

今中構成員

訓練って面倒くさいじゃないですか、だるい。でもスモークがもくもくしてるお部屋の中に入っていくという体験とかが結構覚えてたりとかする。お話を聞くだけじゃなくて、プラス何かしたら、全然違うと思うんですけど。ちなみに今、消火器の使い方とかそういうのはやってるんですか。

やってない。そうなんですね。1次消火は結構大事やし、消火器に触れる機会があってもええと思うし、今やったら段ボールベッドの組立てとかも、やったことないんですか。私はやったことないし、かまどベンチも使ったことないんで、何かそういうものが具体的にパッケージでもらったときに。皆さん、おじいちゃん、おばあちゃんよりは力があって、何でもしてあげたいと思うけれどもやり方が分からへん、どうしようみたいな感じなのであれば、いろんなグッズに日々ち

よっと触れ合えるような機会があっても面白いかなとちょっと思いました。

橋爪部会長

学校が大体避難場所に、一時避難場所になって、備蓄もあって、体育館とかで多くの人を受け入れるとかというふうに。高校まで習うんですよね、恐らく、小、中ですか。

今中構成員

小・中ですね。

橋爪部会長

小・中のときに、備蓄品はこんなものがあるとか、確認する機会があったほうがいいとは思いますが。消火器の実演は、初めてですと結構楽しいかと思います。

今中構成員

的に当てるのは結構難しいし、一瞬でなくなってしまうので、知らなかったら。

橋爪部会長

そうそう、ふだんから1回でも練習で消化器を使ったことのない人は、いざという時に使われへん。

要は、知識ではなくて、体験型の防災教育がいいと思いますね。

今中構成員

そうですね。あと何か義務でするんじゃないかと、ゲーム的にわくわくしながら、ほんまの燃えてるところにかけに行くとか、何かそういう臨場感も含めてあれば面白いなど。

橋爪部会長

佐々木さん、一言。

佐々木特別構成員

自分は、あんまりそういう体験をしたことがなくて、やっぱり皆さんが言うとおり、体験したほうが意識に残って効果的だと思うので、そんな本物の火とか使われへんから、switchとかそういうゲームみたいなやつで火に向かって当てたりするというゲーム感覚みたいだと効果的かなと思いました。

橋爪部会長

ほかいかがですか。

大阪の西区に大阪府の津波・高潮ステーションがあります。私が展示の監修をしたのですが、土のうが、どんだけ重いとか、結構災害のときの支援が大変やいうことを経験できるので、ぜひ見てください。

堺にも、そういう施設がありますよね。

自治推進課長

美原に堺市総合防災センターができました。美原区のほうにございます。

橋爪部会長

それやったら皆さん、一定、学校から行ったり個人で行ったりして学べるんで

すか。

自治推進課長

美原区のほうの防災センター、今、小学校の授業の中でよく利用されています。小学校4年生・5年生で防災授業というのをやっております、そこで、皆さんひょっとしたら体験されたことあるかもしれない。多分それも4年生の防災授業の一環やったのかなというふうにお聞きしたんですけども、今は、その防災センターで少し体験できたりするかなと思います。

橋爪部会長

ありがとうございます。

ほか、よろしいですか。

では、1つ目の議論は、以上にしたいと思います。ありがとうございました。

橋爪部会長

では、次のテーマに移ります。

議題の方向性の2つ目、②子育て・教育、健康長寿などにおける南区ウェルビーイング総合プロジェクトについてであります。

皆様からは、子どもへの支援、体を動かす機会づくり、子どもや高齢者の交流の場、手続のデジタル化・オンライン化などに関して、御意見を頂いております。

また、子育てや教育、健康長寿に関して、区民のニーズは一人一人異なるので、ニーズ調査が必要との御意見や、デジタル社会で屋外での遊びが減少しているとの御指摘もありました。

南区役所では、デジタル・オンラインの技術も活用して、様々なニーズを持つ全ての区民の皆様に「やさしい区役所」をめざす取組のほか、子育て・健康長寿に関する事業やサービスを区民の個別ニーズに応じてプログラムとして提供する仕組みづくりを進めているところです。高校生の皆さんの御意見にも沿った取組であるということではありますが、しっかりと実現に向けて取り組んでいただきたいと私も思っております。

本日は、頂いた御意見の子どもへの支援という枠組みの中の、子どもに寄り添える人を増やすという観点で議論を行いたいということでもあります。

子どもへの支援というのは、大人が一方的に決めるのではなくて、当事者である子ども自身の気持ちを理解し、尊重した上で対応することが大切だとの御意見がありました。また、子どもたちの居場所をつくるのがよいとの御意見もありました。

テーマといたしましては、資料5に記載していますように、高校生の皆さんが、困り事や悩みを相談しやすくするにはということ御意見を頂ければと思います。ちょっと御意見、事前に頂いたのは、割と子どもたちに対してどんなことがあるのかというふうなことでありますが、本日、区役所で設定しましたテーマは、高校生の皆さんのことを伺いたいということのようであります。

質問の1つ目、悩み事をどのように解決しようとしていますかということで、具体的に何か友達同士とか、どのような方法論で意見、何となく自分の悩み等を解決しようとしているのかということで、もし意見があれば。

南区役所は、スマート区役所をめざしています。デジタル化の最先端を走りたいというところがありまして、SNSの活用などが方針として書かれております。この件について御意見あれば、お願いいたします。

下さん、お願いします。

下特別構成員

やっぱり僕ら高校生で、自分は悩み事とかがあったら、大体は普通、友達に相談するんですけど、深刻な何か、もうあんまり誰にも知られたくないとかいう悩み事は、もう親友とか自分が一番頼れる人とかに相談します。周りの高校生とかも見てみると同じ感じで、やっぱり知られたくない情報とかは、親友だけとかに相談してるイメージはあります。

橋爪部会長

ありがとうございます。
ほか、いかがでしょうか。
岡上さん。

岡上特別構成員

私の場合は、友人にも相談とかもするんですけど、友人じゃなくて、やっぱりいつも一緒にいる保護者の人とか、身近な人に相談するのがやっぱり高校生は多くて、身近な人とそういう深い話ができる関係性になっている人じゃないと、こういうのは厳しくて、やっぱり悩み事がある人って、友人関係とかで悩みがあるから、近くにいる大人の人とかが声をかけてくれたりしたら、もっと相談しやすいようになっていくんじゃないかなと思ってます。

橋爪部会長

ほかいかがでしょうか。
お願いします、佐々木さん。

佐々木特別構成員

自分の場合は、誰にも聞かれたくないときは、情報を得るインターネット・SNSというのをちょっと頼りにしてるんですけど、結局インターネットやSNSもどれを信用していいのかという疑心暗鬼になってしまっって、もうどうしようという考えになってしまっって、やっぱり匿名で相談できる場所があれば、気軽にできていいかなと思います。

橋爪部会長

ほかはどうでしょうか。
お願いします。久保さん。

久保特別構成員

高校生って友達同士で結構もめるといっつか、そういう時期なんです。そういうときってやっぱり友達に相談しづらいところもあつたりして、私とかだったら、学校の先生とかによく相談してます。

橋爪部会長

ほかどうです。
竹村さん。

竹村特別構成員

私は、友達に相談することもあるけど、やっぱり一番は親かなと思います。
でも、親以外にも大人の意見が聞ける場所があつたほうが、いろんな意見を取り入れられると思うので、やっぱり周りの大人に相談しやすい雰囲気、例えばインターネットとかでも。インターネットだったら匿名で親身な意見が聴けると思うので、インターネットで相談できるようになるというのは、とてもいいと思っ

ます。

今中構成員

ちなみに、皆さん関係性のない人に対して、なかなか自分の一番、内部をえぐるような相談って難しいという話で多分統一してて、そうは言いながら、今気軽に相談できる場所があればいいなというようなお話もあったと思うんですけど、それってSNS上、匿名性を担保されるような場のほうが好ましいのか、それともやっぱり先生、学校の保健室の先生みたいにちゃんと対面で、相對してやってくれるようなサービスのほうがいいのか、どちらかと言えば、どっちになりますか。SNSのほうがいいなという、デジタル上のほうがいいなという方ってどれぐらいおられます。

橋爪部会長

ちょっと手挙げて。

今中構成員

はい、ほとんどだ。7名の方が。

橋爪部会長

増永さんはリアル。

今中構成員

増永さん、ちょっと御意見を教えてもらえますか。

増永特別構成員

自分は、何か周りに相談するというよりは、自分の中に悩み事を抱え込むタイプで、例えば勉強やったりとか、そういうところをどうしていけばいいんやろうみたいな悩んだりするんですけど。やっぱりそういうのって周りに相談しても、親とかにも自分は相談したりするんですけど、自分と合わない回答が返ってきたりとかするので。自分の中でどうやって納得させられるかというのを自分はやってるんですけど。これは自分としては、あんまり確立してなくて、周りに相談すればいいか、自分の中で納得させればいいのかという、まだちょっと今悩んで、そういうところもちょっと意見聴きたいなと思います。

橋爪部会長

どうでしょうか。新たな質問がありました。

私も一緒です。情報を取るのにはネットとかで幾らでも取れるけど、そこにある意見を自分が納得するかどうかは分からない。友達の意見は、そもそも当てにならないというのは、我々も一緒です。悩みは問いかけるけど、出てきた意見は、ほぼほぼ役に立たないとしても、人に話して楽になるということはあるのかなと。

どうでしょうか。ご意見、お願いします。

浦島特別構成員

悩み事とかあったときに、誰かに相談したり質問したりしたときに、やっぱり相談された側って自分のことじゃないからという感覚があって、どうしても早く解決しようと持ち込むんですけど。当事者としては、やっぱりゆっくりでもいいから時間をかけてでも戻していくとか、解決に向かいたいなというのがあるんで、どうしても急ぐという感覚が、悩んでる人にとって取り残されていくような気持ちに強くなっちゃうのかなと思います。

橋爪部会長

ありがとうございます。

先の質問にも入りたいんです。どうすれば困り事や悩み事が、行政や関係機関に相談しやすくなりますかというものです。これは、高校生の皆さんが行政に相談に来ないという行政側の問題意識があるのかと。高校生の皆さんに、行政にもっと相談に来てほしいという気持ちの表れかと思います。高校生にとっては、行政に相談に行くのは敷居が高いというか、そもそも何を誰に相談していいのかわからないということかと思うんですけど。

何か行政に相談に来たことある人いますか。返事がないので、ないんやね。

どうすればいいんですか。南区のアバターとかいたら相談しやすいでしょうか。そんなわけでもない。

どうぞ、岡上さん。

岡上特別構成員

そもそも行政に相談していいということ、今まで自分も知らなかったし、多分知らなかった人がほとんどやと思うんで、もうちょっと相談できるよというのを学校とか、授業とか通じて言ってくれたら、もしかしたら来られる人も増えるかなと思います。

橋爪部会長

区長とかどうですか。

南区長

この質問をさせていただいてる趣旨なんですけども、小学校・中学校、堺市立とつくところというのは、やっぱり関係性が保てるんですけども、高校生、要は高校との接点というのが突然なくなるんですね。区役所の立場からすると、高校生の方とのチャンネルが一切なくなってるのが今なんです。

ただ、区役所の中には、子どもの関係ということで18歳、もしくは、場合によっては二十歳過ぎてでも、区役所の仕事でもあるんです。けれども、今、本当に15歳から18歳の方々へのアプローチというものが、何があるんだろうと、本当にもやもやしてる状態なんです。

おっしゃったように、本当に相談しに行く場所として、多分、区役所に来るなんてことは、まず第一の発想として起こらないし、そんなことができるということも多分ないので、まず何を御相談されたいのか、それに答えられる環境というものがどういうものなのかということも、私たちがつくっていかないといけないし。その悩みを受けて、解決させていただくのに、どういうものが必要なんだろうというようところがなくて、それをソリューションとして解決する方法が、今持ちあぐねてるということなので。まず、そんなことができるということが知らないということ、まずどうやったら、そういうニーズに応えられるのかということの御意見とか御要望というものを。さきほど、おっしゃったアバターとか。

1つ教えていただきたいんですけど、SNS上とかで匿名で相談できる。匿名で相談して、本当にその答えが正しいのか、その辺の不安とか怖さというものは、高校生の皆さんはそんなにお持ちでないのかな。その辺の御意見はいかがです。信じるに足りるといふところなんではないかと。

橋爪部会長

ちょっと2つ話があって、いわゆる南区民で、地元の高校行っている人は区役所へ来るけど、ほかの区とかほかの町・市住んでこっちへ通ってる人は、ほぼほぼ区役所なんて来たことがない。皆うなずいてる。皆初めて今日、区役所に来

てるかもしれん。初南区役所だったりも多いかも。だからそこを何か、直接、相談事なんて書いてますけど、ほかの何か一緒にできることとか、そんなんでもいいので関係性を持つために何かというのが、要は住民票、住んでいるところ以外だけ昼間ここで、南区で時間を過ごされている人とどう交流、関係を持つのかというのが1つ目で、その後は、匿名の相談は信用できるんかということですが、何か2つ、どちらでも御意見あれば。

竹村さん。

竹村特別構成員

すいません、まず、質問なんですけど、今その相談のツールというのは、直接区役所でということですか。

南区長

子どもさんという意味でいうと、18歳までの子どもさんに関しては、子育て支援というような範疇に入りますので、こちらで御相談事は承れるということになる。

竹村特別構成員

私個人の意見なんですけど、正直、直接来てまで相談というのは、あんまり思いつかないかなと思います。やっぱり区役所といたら、本当はそんなことないのかもしれないんですけど、やっぱりちょっと混雑しているというイメージとかがあったり、行ったらめっちゃ混んで、用事が終わるまで大分待つみたいなそういうイメージがあるので、やっぱりインターネットを活用するという感じのほうがいいかなと思いました。

橋爪部会長

ほかはいかがですか。
お願いします。

山本特別構成員

僕個人としては、行政とかに相談すると言われたら、例えば進路の悩み事があるとして、それを行政にはならないんですよ。行政に相談すると言ったら、この書類どうやって出したらいいですかとか、戸籍謄本の取り方はどうしたらいいですかみたいな、そんな感じのことしか。行政と言われたらそれしか出てこないで、何ていうんですかね、行政というふうに言われちゃうと、自分の心を打ち明ける場ではないかなというふうに捉えちゃうので。そこをどうにかして、心から自分の意見を発することができて、それを聴いてくれる環境が必要かなと思って、その中でさっき言ったアバターみたいなのもいいんじゃないかなと。高校生ってスマホをみんな持ってるんで、そもそも気軽に相談できるという、言わば主体が行政になってたとしても、自分の心を出せる場だよというふうなのをアピールできれば、高校生としては、そこに頼りやすいんじゃないかなというふうに思います。

橋爪部会長

こういうサポートのメニューがあるとか、そんなことが全然伝わっていないですよ。小・中のまだ義務教育の間はあれですけど、高校生のサポートメニューとかプログラムとかいうのをまず伝えないと、何があるのか分かんないですもんね。そこはぜひ考えられるといいかなと私も思います。

ほかはいかがですか。

佐々木さん、お願いします。

佐々木特別構成員

自分としては、行政といったらちょっと怖いイメージがあって、自分1人で行くのも心細いと思うし、やっぱり自分の悩み事が相談していいのかなという、こんなしょうもないことでもいいのかなという、ちょっとためらいがあったりするんで。もっとこんぐらい、このことでもいいよみたいな例があったら、みんな相談しやすいかなと思いました。

南区長

ありがとうございます。

橋爪部会長

ありがとうございます。

ちょっと今の話と関連して、堺市は、子どもの居場所が大事やと考えています。小・中、あるいはもっと下の児童が、ふだん過ごす場所をどう確保するのかを重要な課題として考えている。その場合、どういう場所があったら良いでしょうか。何かアイデアがあれば、どういう場所で、どんな雰囲気、何があったら居心地がええねんという意見が欲しいと書いてあるんで。ちょっと、質問のところにないんですけど、行政、区役所からリクエストがあるので、どうでしょう。

今中構成員

例えば今日のこのお部屋とかに、ここを自由に使っていよと言ったら、榎・美木多の近くの佐々木さんは来ますか、来ないですよ。

佐々木特別構成員

はい。

今中構成員

じゃあ逆に、何か毎日でも友達と行きたいなとか、1人で行きたいなというふうに思えるような場所ってどんなところですかね。

佐々木特別構成員

毎日来たいと思うんだったら楽しさというのが必要だと思うんで、やっぱりカフェみたいなんがあって、それを飲みながらとか食べながら相談したりしたら楽しく行けるかだったり。区役所のイメージが変わって、アットホームな感じで怖いのがなくなっていいかなと思います。

橋爪部会長

私が立ち上げてやってる、まちライブラリーというのがあって、北海道のある自治体で、駅前に市がつくってるんですけど、ライブラリーがあって、無料で使い放題で、自習室になって、いろんなライブとかもやってるんですけど。高校生が、高校から家に帰る途中にそういう無料の自習室があって、コーヒーも飲めるみたいなのをつくってるんです。そこ本当に高校生の方が、時間調整でいつもよく使ってる、割と駅に直結してあるんです。皆さん、通学の途中に何か拠点があるといいかなと私は思うんですけど、途中で、居場所があったらいいと思いませんか。

小・中の頃ってどんな場所があったらよかったですか。

岡上さん。

岡上構成員

小・中のときは、遊ぶ場所が外しかなくて、外で遊ぶのも大事だと思うんですけど、もし雨とか降ったときに、結局どこも行く場所がないとかがあったので、室内で遊べる場所とか。そこに例えば高校生もいたら、高校生のお姉ちゃんたちが遊んでくれるとか、お兄ちゃんが遊んでくれるとかがあったら、よかったかなと思います。

橋爪部会長

堺にそういうのはないんですよね、内型の児童遊園とか公園とか。

自治推進課長

ないです。

橋爪部会長

最近、雪国、東北とか新潟各所にそういうのができてきて、冬の間グラウンドとかそういう遊ぶ場所が、外が使えないんで、インドアで広い大空間があって、自由に遊べる。小さい子は、お父さん、お母さんとかと一緒にそこで時間潰しみたいなのが各所に最近、急にできてきてるんですけど。これだけ夏暑いし、クーラー効いてる遊び場所があったらいいですけどね。ありがとうございます。

ほか何か、どうぞ、山本さん。

山本特別構成員

小・中学生が集まれる場所というのがあって、ある駅前のショッピングセンターみたいなのの中に入って、近隣の小学生とかも、僕、妹、弟もいるんですけど、ヒーロー研究室というところなんですけど。NPO法人の方がやってくれてるところで、そこの中にはおもちゃがあったりとか漫画があったりとか、普通に友達と一緒に夏とかよく行ってたんですけど。エアコン効いてるから、あそこに行ったりして遊ぶということをよくしてました。

幼稚園児とかは、「あいく」というところがあったりして、本当に屋内型で、幼稚園の子ら未就学児までが遊べる施設というのがあって、そこでお母さん同士の交流とか、親同士の交流があったりとか。あと子ども同士でも、近くの住んでる子とか幼稚園一緒の子とかと一緒にいたりして。幼稚園会でも遊ぶとかいうのがあったりして、やっぱり屋内型の施設というのは、夏とか雨で天候悪い日でも行きやすいし、そこには大人もいるので、親としても行かせやすいのかなと。1人で何か外のどっか勝手に遊びに行くとかよりは、そこ行くと行ったら、大人もおるし、何かあったときは対処してくれるから安心なのかなというふうに思いました。

1回、気になれば調べてみてください。

橋爪部会長

調べはると思います。

政策企画部先進事業課長

すいません、ありがとうございます。

堺市にも泉ヶ丘の駅のところにビッグバンという子どもが遊べる屋内施設というのがあるんですね。そこでは1階が無料開放されてて、2階・3階とかになると有料なんですけれども、そういったところで主に小学校の低学年の方が非常によく御利用いただいているんですけども。そういったところで、今おっしゃっていただいたように、子どもさんと保護者の方とか、保護者同士の方が交流するというような形での使い方とかもされてる、そういった施設もございますので、また参考にしていただければと思います。

橋爪部会長

ビッグバン、巨大ですから、一度見ていただけるといいかなと。
ほかいかがでしょうか。
お願いします。浦島さん。

浦島特別構成員

この方向性でちょっとまとめて3つ言いたいことがあります。1つ目は、屋内型で遊べる場所とかそういうものなんですけど、そこに行くとなったりするときに調べたりしないといけなくてみたいな。入るには、区民の人じゃないと駄目とかそういうのがあったりすると思うんですけど、やっぱりそうなったときに、じゃあちょっと面倒くさいなど。面倒くさいなどちょっと思った時点で、やっぱり行くのやめようみたいな、なっちゃうところがあると思うので、やっぱり単純なものの方が意外と受け入れられやすいのかなと思いました。

2点目は、相談の話になるんですけど、皆さん相談するか、しないかの分かれ道で結構話したと思うんですけど、相談するとなったときに、じゃあ相談相手は誰とか、どういう人でとか、誰に何を相談するんだろうと自分自身で今から何話すとなったときに、何ちゃらの専門の人がとか、区役所の何課の人がとか、そういう肩書というか。どこに相談できますと言われたときに、何かそこまでじゃないなど思っちゃったら相談には結びつかないなどと思いました。

あとスマート区役所、デジタル化についてなんですけど、デジタル化する上でやっぱり、国がやったマイナンバー等の件とかもありますけど、個人情報の管理がやっぱりデジタル化される側としては不安になるかなというところで、セキュリティが大丈夫なのかというのもしっかり発表できるというか、安心できるようにシステムをつくっていただけたらうれしいです。

橋爪部会長

ありがとうございます。確かにそうですね。
ほかいかがですか。

さっき言った自習室、有料の民間の自習室があったり、あと図書館とか行くところなんですけど、地元、住んでるとこの近くとか休みの日に行くと思いますが、ふだんなんか南区のどこかに行くとかいうの、あるんですか。

山本特別構成員

僕は、テスト期間とかは泉ヶ丘駅前にある図書館あるじゃないですか、あそこは行ったりしたりとかして、さっき何か居場所みたいな感じの話したと思うんですけど、僕が高校1年生のとき、泉ヶ丘、今工事してるじゃないですか、あれが始まる前で、緑の小っちゃい丘みたいなんがあったんですよ。そこで結構、放課後、部活終わりとかに友達とそこでちょっとしゃべったりとかというのをしたんで、今なくなっちゃったんですけど。そういう、言っちゃえば、ただ小っちゃい丘があるだけじゃないですか、芝生の。もうそれだけ聞いたら何なんていう感じになっちゃうんですけど、でもそれが結構、高校生にとっては大きかったりとかして、ただ小っちゃい山があるだけで、もう高校生はそこが居場所になるという感じだと思うので。何ていうんですかね、泉ヶ丘ってやっぱり学生多いと思うんで、そこで寄れるところであったりとか、実際にそこに寄らなくても、スタバ飲みながら、そこで寝転がってる高校生とかも見たりしてきたので。やっぱり簡単に寄れる、簡単にすぐそこに足を踏み入れられる環境というのが大事なかなというふうに思います。

橋爪部会長

そういういろんな目的で使える居場所がパブリックであればなということですね。自習室、勉強せな怒られるからね、やかましい言うて。ちょっとそれ以外の何か、高校と家の間の経路のどっかに数か所あればということだと思っんです。

今中構成員

大蓮公園とか結構高校から近いんじゃないですか。大蓮公園で、学校と通学路の間にあると思っんですけども、泉ヶ丘駅前の小山じゃなく、リアル大蓮公園でだべるといシーンは、やっぱりあんまりない感じで。何か違うのかなというふうに。私も駅前のあの小山が結構好きやったんで。

山本特別構成員

地理的な要因もあると思っんですけど、大蓮公園、泉北高校から大蓮公園に行こうと思っると、めっちゃ暗い道を通らないといけないんですよ。大蓮公園にいる人は、ほぼいないかなという感じで、わざわざ暗いところ通るかというのもあるし、何かちょっと遠回りになってるような気もするんですよ。それも図書館の裏側から出てくるじゃないですか。何かそれって遠回りなのかなとか思っっちゃったりとかもして、あんまり通学で使ってる人は見たことないです。

ただ、たまに見かけるのは、夏のめっちゃめっちゃ暑い時期にマイナスイオンを浴びながら帰る子とか、夏はちょっと明るいで、部活終わった時間帯でも。やっぱり明るさの問題はちょっとあるかなとも思ったりとか、ちょっと遠回りになってる感じがあるというところもあるので、やっぱりさっき泉ヶ丘のもともとあつた小っちゃい山のほうが行きやすいし、距離的にとか、すぐ帰れるじゃないですか、もう電車乗ったら終わりなんで。そのアクセスのよさというのもあると思っます。

橋爪部会長

今、大蓮公園が暗いというお話がありました。可能な範囲で、改善に向けて、御検討いただけると良いかと思っます。ありがとうございます。

先ほど浦島さんおっしゃつたデバイスとかセキュリティ、マイナンバーカードの事例ですけども、その辺もスマート区役所の中では考えられているのでしょうか。

南区長

マイナンバーカード自体のセキュリティというのは、当然、国のほうから示されてるところでもありますし、仕事の上で区役所がマイナンバー等、個人情報を取り扱うというの厳密に手順等を遵守ということがありますので、その点お預かりしている個人情報というものは、用途以外に使用しないというのは当然のことですけども、その保管というのはちゃんと市でも区でも統一した基準です。

ただ、完全に漏洩がないかという、やっぱりシステムって日々新しくていきますし。やっぱりセキュリティホールとかいろんな問題というところがあるので、そこはもう本当に日々、市全体として更新をかけてるということで御安心はしていただきたいと思っしております。

橋爪部会長

ありがとうございます。

ちょっと時間が押してきましたので、次の話に入りたいと思っます。3つ目、方向性③南区ブランド戦略「みどりとともにかなえる豊かな暮らし」という件で

あります。

テーマとしては、ロゴマークの活用と書いております。住みやすい南区にするために御意見を頂いたところ、緑に何かを加えるというほうが、若い世代には訴求力がある。南区の中でも自然の多い南のほうだけではなくて、区全体で緑を感じられるようにしたらよいというふうな意見を事前に頂いております。

南区政策会議1期のほうでは、南区ブランド戦略ということで、「M&GREENs」を掲げました。Mは南区のことなんですけど、GREENsは、単に緑化だけではない、様々な意味に取れるという思いがあって、&GREENsと複数形で示しました。ロゴマークの状況に関して、皆さんにお伝えいただいているのでしょうか。

南区長

すみません、資料1の資料の一番最後、南区ブランド戦略の内容のところは南区ブランドM&GREENsという言葉をやっていると思うんですけども、今現在、このM&GREENsのロゴをどういうふうデザイン化するというところを公募、広く募っているところです。デザインは今募集中なので、美術部の方がいらっしゃったら応募していただいても大変うれしいです。

橋爪部会長

まだロゴマークできているわけではないのに、ロゴマークをどう活用するかということについて、自由にアイデアを頂きたいということです。

3つの質問を並べております。ロゴマークの活用、南区のブランドを展開する上でどのような効果的な方法があるのかということ、そして高校生の皆さんはどんなコンテンツに注目されますかということです。

ちなみに南区のシンボルマークは皆さん見たことありますか。あと一緒に「みみちゃん」は見たことありますか。

みみちゃんの「み」は、南区の「み」ということになります。「み」だけでメッセージ性はあんまりないんです。対してM&GREENsは、緑のある南区ということを打ち出したいということになります。

南区長

募集中なので、すみません。

橋爪部会長

どうぞ、浦島さん。

浦島特別構成員

僕は、今の段階で、まだロゴマークが決まっていなくて話しやすいと思うほうなんですけど、活用しやすいとか、みんなに知ってもらおうという目的でロゴマークを作るからこそ、何ていうんでしょう、カッコいいマークとかおしゃれなマークとか。南区のマークであるじゃないですか。あのマークも多分ずっと前からあると思うんですけど、知らないんですね。僕はどんなマークかも知らなくて、1回調べてうろ覚えしてるのは、何か3つ線がしゃしゃあるような、ちょっと違うかもしれないんですけど、何かそんな感じかなというので。

橋爪部会長

やったら、皆さん見たことないかもしれん。

浦島特別構成員

触れる機会がほぼないに近いんですが。何年も前からある南区のマークでさえ

も、南区に通ってても南区に住んでても知る機会が少ないという上で、また新しいロゴマークを追加するとなったら、それをどう広めていくのかというのはとても重要なというふうに思います。

橋爪部会長

ありがとうございます。
ほかいかがでしょうか。
お願いします。

岡上特別構成員

さっき言っていたとおり、まず、ロゴマークがあることすら知らなかったの。ロゴマークがあっても、何かもっと目にふだんからつくようなところがないと覚えれないと思って。高校生がどんなコンテンツが注目されやすいですかというのは、やっぱり高校生はSNSをもうめっちゃくちゃ使っていて、インスタグラムとかT i k T o kは、もう毎日絶対みんな使ってるので、インスタやったら、結構高校生も自分たちの授業でやる探究活動でも自分たちのアカウントを作って、そこへ動画投稿とか写真とか投稿して、いろんな人に見てもらおうというのを自分たちでどんどんやっていってるので。そういうSNSで誰でも簡単に見れるというふうにしていったほうがいいかなと思います。

橋爪部会長

ありがとうございます。
ほかいかがでしょうか。
増永さん。

増永特別構成員

これはちょっと質問の内容とちょっとずれるところがあるんですけど、SNSを活用して、南区のブランドを高めて確立していくというふうな議題だと思うんですけど、SNSといたら、世界中に情報を伝達する手段があって、南区の予算とかを発信、たとえしたとしても、実際、もう人が南区に来るかと言われたら、必ずしもそうじゃないと思うんです。だから、SNSというものを使うというのにこだわらないというのも一つの手なんかなというふうに思います。

橋爪部会長

ほかいかがでしょうか。
お願いします。

山本特別構成員

皆さん、SDGsのマークと言われて、何か大体イメージできませんか。何かちょっとカラフルなリングのやつとか、何かカラフルな表みたいなんをイメージすると思うんですけど、それって何で分かるかといったら、目に入るからだと思うんですよ。まず、そのロゴマークを使うに当たって、これ見たことあるやつや、大体こんな感じやったなというのが結構重要なと思ってて。もうその時点でその人の頭の中のどっかの片隅には、そのSDGsのマークがあるわけですよ。じゃあその状態を、このロゴマークでも使えたらなというふうに思ってて。実際、泉北高校では、校舎に入ったところに天井から17つの目標みたいなんがつり下げられてるんですよ。無意識に目に入っちゃうんで、別にそれを覚えようとしてるわけでもなく、もう勝手に目に入るから、こんだけあって、大体こんながあんねんや。こんなカラフルなロゴみたいなのがあるんやというのが、もう自分も無意識に、何も意識してないんですけど入ってきてるので。やっぱりその

状態をつくるのが大事かなというふうに思う。SNSとかであってもやっぱり見たことあるという状況をつくるために、広く発信していくことであったりとか。それこそ駅とかに、それだけのポスター貼ってもいいんじゃないかと思うぐらい、もうそれだけで見たことあるになるじゃないですか。こんな封筒とか、学校から配られる封筒とかにもあったら、見たことあるやつや。その見たことあるという機会をつくるのが、ロゴマークを活用していく上では一番重要かなというふうに思う。そのロゴマーク見たことあるなとなったら、そこから内容こんな感じなんやというふうに広がっていくと思うので、まず一つのきっかけとして、見たことあるやつだというふうなのを作るのが大切かなと思います。

橋爪部会長

南区、至るところに&GREENs展開をするという。

さっきだったら、南区のシンボルマークで皆さん見たことありますか。あと一緒に生まれた「みみちゃん」は見たことありますか。

みんな、みみちゃん、あれみみちゃんの「み」のマークです。南区の「み」は、みみちゃんの「み」何を言うてるんやろと思ってる。だから、「み」だけでメッセージ性はあんまりないんです。このM&GREENsは、緑のある南区やということをちょっと出したいなというところがあるんですけど。みみちゃんグッズとかはないです。区役所のその辺に、外の廊下とか、みみちゃん何か所か。

南区長

みみちゃん、外にも上にも。

橋爪部会長

上にもいる、いや、ゆるキャラブームはどうなんだとかいうのも意見欲しいところですね。ちょっと新しいロゴマークを作ろうとしています。現在デザイン募集中なので、デザインの得意な人がいれば応募いただくか、デザイン得意な知人に宣伝ください。選ばれると何かもらえるんですか。

南区長

賞金と副賞がついてまいります。

橋爪部会長

あと、先々デザイナーめざす人は、経歴書に南区のロゴ選ばれましたとか書けるんでいいかなと思うんで、またちょっと宣伝もしてもらえればと思います。

(2) 南区ウェルビーイング見える化プロジェクト

橋爪部会長

最後、議題の2つ目に入りたいと思います。

資料の3に戻る形で、先ほど申し上げた南区独自のウェルビーイングという言葉をこれからプロジェクト化していかなあかんということで、事務局より説明をお願いいたします。

上山参事

資料3のほうを御覧いただきたいんですけども、先ほど、冒頭に部会長のほうから説明ありましたように、区役所がまちづくりとか政策を進めていくに当たっては、時期ごとの異なる特性というのを十分把握した上で進めていく必要があるというような考え方が今あります。

じゃあどうやってそれを知ったらいいんだというところなんですけれども、こ

のたび国のデジタル庁のほうが、全国一律に調査をしています。調査の内容というのが、例えば住んでいる地域にどれぐらいの近さで病院があるかやったりとか、面積当たりの保育所の数という客観的な指標というのと、50項目から成るアンケート、主観指標というのから、暮らしやすさであったり幸福感というのを数値化・可視化したものになります。これはホームページのほうで公表されていて、全国平均と比べて自分の住んでいる都市がどういう特徴があるのかが見えるようなものになっています。

2ページ目、3ページ目を御覧いただきたいんですけども、2ページ目のほうが、堺市全体と全国の平均値を比べたものをグラフ化したものになります。これでいいますと右上の地域の間人関係というところが、偏差値50の平均値よりちょっと下回っている部分があるなというのが堺市の特徴として見て捉えられる。下の段の生活環境というところかというと、右のほうで字が小さくなるんですけども、自然の恵みであったり自然環境に関しては、堺市全体が全国と比べると少し低い。こういった特徴が見られるというものになります。

それと比べて3ページ目が、南区と全国の平均を比べたものになります。そうすると地域の間人関係というのが、堺市と比べると南区って高いんだとか、先ほど言った生活環境の自然のところ、すごく南区は高いという、同じ堺市であっても、これだけ特徴の差が出るというのが客観して見られるというものになります。

今日いろいろ議論していただいている施策とかというのは、こういう市民さんの思いとか特徴を捉えて進めていく必要があると考えています。

4ページ目を見ていただきたいんですけど、南区ってすごく地域のつながりとか高いんだなというのが、先ほどの分で見られるんですけども、これ下を見ていただいたら、一番左が20代の方、その次が30代、右に行くにつれて10代ごとで刻みがあるんですけども、真ん中の線より左側が偏差値が低い項目、右側が偏差値が高い項目というのが、年代別で見られるようなものになっています。70代とか80代の方を見ていただいたら、真ん中より右側のほうにすごく青いグラフが伸びていて、いろんな項目で高齢者の方というのは満足度が高いんだなというふうに見てとれるんですけども、逆に20代・30代の方の数字を見ると、左側にグラフが出ている部分、地域のつながりであったりとかというところは少し低い。防災・防犯に関する取組が、先ほどちょっと道が暗いとかいった御意見があったので、そういったところをこういうところに表れているのかなというふうに思っています。

こういった国が示している指標というのがあるんですけども、3ページ目に戻っていただいたら、実は回答者数というのが3ページ目の左下、南区の住民さんでいうと196人の御意見なんです。数字としてはちょっと少ないなというところで、この見える化をより深掘りしていこうと、このプロジェクトでは、南区民の方を対象に、来週、1月26日から2月25日までアンケートを実施しようと思っております。同じような項目にはなるんですけども、どういうことに皆さんが幸せを感じるのかなというところであったりとか、今日、説明させていただいた事業というのが皆様の思いと一致してるのかなというのを知るためのアンケートになります。

南区に住んでいる方、南区に勤めている方、南区に通学でされている方を対象にしていますので、もちろん今日来ていただいている皆様にも答えていただきたいですし、御家族の方にも答えていただきたいので、学校や、御家族の方にお知らせいただけたら助かります。子育てに関する質問とかもあるので、ちょっと答えにくい質問、該当しない質問もあるかとは思いますが、そこは飛ばしていただいて結構ですので、御協力いただけたら、今後、私たちが取り組んでいく事業に反映していけるかなと思いますので、よろしく願いいたします。

説明は以上になります。

橋爪部会長

ありがとうございます。ウェルビーイングというのは、客観的に数値化できるものに加えて主観を一方で重視しています。冒頭申し上げたようにほかの町とは違う、南区なりのウェルビーイングとは何かを考えていこうというようなことになります。データ、プラスアンケートということで進めているところなんですけども、何か質問とかありますか。

浦島さん。

浦島特別構成員

今さっき言うと言ってたアンケートについてなんですけど、どのような形で募集して、どのような形で集めるのか、ちょっと詳しく知りたいなと思います。

上山参事

ウェブで答えていただく形になるので、まだちょっと準備できてないんですけど、準備できましたらホームページや、2月の広報にQRコードを取れるようなものと、あと直接アンケートに答えていただくアドレスというのを載せますので、携帯とかでQRコードを読み込んでいただいたりとか、ホームページからアンケートフォームのほうに飛んでいただけたらと思います。紙での回答というのは想定しないので、携帯とかパソコンを使って答えていただく形になります。

橋爪部会長

増永さん。

増永特別構成員

南区のほうで自然の環境がすごい偏差値として高いと言ってたんですけど、堺区では、街とか見てみると、やっぱりビルとかめっちゃくちゃ建てて、もう住宅街というよりは、もうビル街みたいな感じで、お寺とかもあるんですけど、やっぱりそれでも市役所とかもあつたりとかして、都市って感じがするんです。南区は、自然とか、そういうのがすごくて、何かいいなというふうに思ったんで、やっぱり自然環境というのをこれからも持続して行ってほしいし、今やったら近大の病院が泉ヶ丘にできると思うんですけど、そういう医療とか、そういうのにも力を入れていってもらえると、南区全体としても、高齢者の方とか、あるいは泉ヶ丘の周りというと高校とかも多いので、やっぱりそういう部活動とかでけがをした生徒の人とかも行きやすいのかなというふうに思います。

橋爪部会長

ありがとうございます。
ほかいかがでしょうか。
お願いします、久保さん。

久保特別構成員

私の学校へ行くまでの通学路で、泉ヶ丘の駅と、さっき言っていた近大病院とかが建てられる。新しくなって思うんですけど、最近、新しくなっていってるのもあるんですけど、橋とか、歩道橋のところが工事されてたり、その工事が多いと保護者の方たちが面談に来たときとか、どこを通ればいいのか、いまいち分かんなかったり、一気に工事を行ってしまっていたら不安になる部分があるなど、私、思いました。

橋爪部会長

この際、区役所に、何かこれだけは言いたいというのはありますか。

佐々木特別構成員

自分は、毎朝自転車で登校してるんですけど、自転車の自転車専用レーンとかあると思うんですけど、たまにない部分があったりして、朝はもうここベッドタウンで。何か学生が全員、ほぼ自転車の人が多いんで、ぶつかったり、危ないんで、ちょっと自転車レーンをもっと広げたり、ちゃんと造ったりしたほうが、車とか接触が少なくていいかなと思うんで、お願いします。

橋爪部会長

ほか何か。
浦島さん。

浦島特別構成員

自然とか緑を大切にするという形で進めていくとずっと言ってるんですけど、やっぱり地図で見たら、山があったり、ちょっと大きめの公園があったりで緑が多いなと思ったりするけれど、その隣の道を歩いたら、結構倒木が多かったり、暗かったり、ちょっと怖いなというイメージはあったりするんで、やっぱり木を植えるにしても、木も生きているから、その先の管理というものをしっかりしていけば、緑としてきれいな外観になるのかなと思います。

橋爪部会長

ありがとうございます。ほか。
そろそろ今日は時間が終わるので、いいですかね。最後に一言何か、いいですか。
今中さん、ちょっと今日の全般に関して御意見か感想があれば。

今中構成員

ありがとうございました。すごく面白いお話をたくさん聞かせていただきました。駅前の商業施設を管理している立場として、居場所という部分がすごく面白かったなと思います。大蓮公園の話出しましたが、それ以外にもビッグバンの前の交流広場であったりとか、くすのき広場であったりとか幾つもあるんだけれども、あるだけだったらあかんねやろか。何か集まってもらえるような仕掛けも含めて、それがたまたま小山やったけども、同じような小山は、実は商店街の中にも、ちびっこ広場のところで設けてたりするんですけども、多分そこじゃなくて、前のオープンエアのあそこやったら皆さんは、集まってくださるんだろうなということで。ただ単につくるだけではいけない。やっぱり集まってもらうような仕掛けであったり美しさであったりデザインであったとか、そういうことが必要なんだなというふうに改めて、皆様のお話を伺いながら思いました。
ありがとうございます。

橋爪部会長

工事済んだら、小山が復活してたり。

今中構成員

したいですね。もっと大きい山にしたいかもしれない。

橋爪部会長

ありがとうございます。
予定の時間が参りましたので、本日の議論、以上とさせていただきます。
本当に活発な御意見頂きまして、ありがとうございました。

では、進行を事務局にお返しいたします。

3. 閉会

区政企画室主査

部会長、ありがとうございました。

本日は、長時間にわたり御議論いただき、誠にありがとうございました。

これをもちまして、堺市南区政策会議第1回未来共創高校生部会を終了します。

次回会議は、令和6年7月の予定です。日程については、後日調整させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

閉会（午後6時28分）